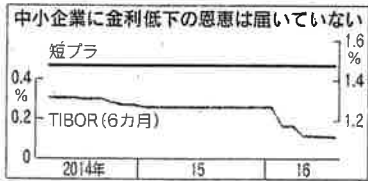
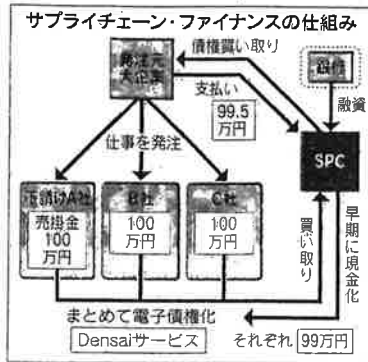


2016年(平成28年)8月29日(月曜日)

低金利の恩恵 中小に

売掛金 電子債権ですぐ現金



フィンテック 現場発

Transax 資金繰り支援

ソフト開発会社、NC S&Aは8月、Transaxが始めたサービスを導入した。橋本和夫経理部長は「売掛金をすぐに現金化できるので売掛先の企業も喜んでくれ

金融とIT(情報技術)を融合したフィンテックベンチャーのTransax(東京・港)は、下請けの中小企業を持つ売掛金を電子債権にして早期に現金にするサービスを8月に始めた。中小に仕事を発注する大企業と共同で金融コストを削減する。取引する企業間で債権を循環させ、事務作業を軽減するとともに中小の資金繰り支援につなげる。

子債権記録業の認可を得た。これまで電子債権記録機関はメガバンク系と全国銀行協会しか運営しておらず、ベンチャーの認可取得は初めてになる。

仕事の発注元と発注先で債権を循環させるため、Transaxは開始したサービスを「サプライチェーン・ファイナンス」と名付けた。まずTransaxが特別目的会社(SPC)を設立する。下請けの複数の中小企業が保有している売掛金を、Densaiがまとめて電子債権にし、SPCに売却する。下請け企業は売掛金の支払期日を待たずに現金化でき、資金繰りが楽になる。大企業側には下請けを支援する意味合いがある。うえ、SPCから支払期日前に電子債権を買い取れば支払い額を減らせる利点がある。下請けが保有する売掛金が100万円だった場合、SPCが99万円(割引率1%)と想定で買い取り、それを発注元の企業が99.5万円で購入するイメージだ。SPCと発注元企業は0.5万円ずつの利益を得られる。

なぜ金融コストを下げられるのか。SPCが債権を買い取る際、中小企業ではなく債権の元となる大企業の信用力を適用できるためだ。

大企業と中小企業では適用される金利が違ふ。大企業の債権を持つSPCは、この企業の信用力を背景に銀行などから資金調達する。このため債権の割引率は東京銀行間取引金利(TIBOR)に信用力に応じた金利を上乗せした1%前後にできる。仮に中小企業が自社の信用力で債権すると金利は短期プライムレート(1.475%)が基準になる。

マイナス金利下で、TIBOR(6カ月物)は直近で0.1%まで低下した。年初の半分以下の水準だ。一方で短プラは1.475%に据え置かれたままだ。中小に及ぶにくい低金利の恩恵をフィンテックを使って得られる仕組みとなる。

電子債権は事務作業の軽減に大きな効果があるが、金融コストそのものを減らす取り組みは少なかった。Transaxの小倉隆志社長は「サプライチェーン管理の仕組みをお金でも構築し、中小企業にマイナス金利の恩恵を届けたい」と話している。(奥貫史)